

第40回 信頼性・保全性シンポジウム

参加者募集のご案内

テーマ

環境と信頼性・安全性の両立に向けて

日程 2010年7月15日(木)、16日(金)

会場 日本教育会館(東京・千代田区一ツ橋)

※“プレセミナー”は、7月14日(水)に開催

協賛：(社)情報処理学会 (社)電子情報通信学会 (社)電気学会 (社)日本品質管理学会 (社)日本機械学会
 (順不同)(社)日本自動車部品工業会 (社)日本オペレーションズ・リサーチ学会 (社)計測自動制御学会
 (社)日本航空宇宙学会 (社)日本航空技術協会 (財)日本電子部品信頼性センター (社)自動車技術会
 (社)応用物理学会 IEEE Reliability Society Japan Chapter

最新情報は、
インターネットでご覧ください!!

40信頼性シンポジウム

検索

7/15
[Thursday]
午前

特別講演

三洋電機における
環境戦略と信頼性・安全性

本間 充氏

三洋電機株式会社 取締役副社長

7/15
[Thursday]
午前

基調講演

環境と信頼性・安全性の
両立に向けて

佐藤 吉信氏

東京海洋大学教授 海洋工学部 海事システム工学科
信頼性・保全性シンポジウム組織委員会委員長7/16
[Friday]
午前

チュートリアル講演

日本のものづくりと
サービスの革新を発信!

これからの日本のものづくり、
サービスの課題解決に貢献できるリーダーと信頼性技術者の育成
 (経験豊富な豪華な講師陣!詳しくは、中面をご覧ください。)

7/16
[Friday]
午後日本信頼性学会
「故障物性研究会」によるセッション

- チュートリアル発表
高信頼性時代に向けた信頼性技術
- パネル討論
高信頼性時代に向けた信頼性技術と部品調達

NEW!

第40回記念企画!

7/14
[Wednesday]
午後

“プレセミナー”開催します!

【会場】日科技連 本部ビル(東京・渋谷区千駄ヶ谷)

テーマ

- カーエレクトロニクス分野の信頼性
- 情報・AV機器分野の信頼性

(詳しくは、中面をご覧ください。)

シンポジウムの前日に開催するスペシャル企画です。
 知見と業務の質の向上・現場の信頼性技術のレベルアップ! 若手から中堅の
 技術者に最適なトピックスを2分野4事例のプログラムで構成しました。

参加のおすすめ

1971年に開始した当シンポジウムは、いろいろな分野の信頼性・保全性に携わるエンジニア、マネージャー、研究者の方々にご参加いただき、研究発表、事例発表、討論などを行うとともに、基調講演、特別講演、パネル討論会、チュートリアルセッション、展示コーナーなど、多彩な人的交流と情報交換の場を提供することを主眼として開催しており、国内外から高い評価を得ております。

今回のシンポジウムは、「環境と信頼性・安全性の両立に向けて」をテーマに、例年通り開催いたします。炭酸ガス排出規制など環境への配慮が必須になった世界情勢となつて、例えば自動車における電子制御技術などのように、省エネルギー、代替エネルギー、軽量化技術などが幅広く求められています。新技術においては信頼性・安全性に未知の部分も存在します。最近整備されつつあるIEC 61508, ISO 26262など電子制御システムの信頼性と機能安全に関する国際標準も考慮しつつ、環境と信頼性・安全性の両立をいかに達成するかについて理解を深めていきます。

貴社の信頼性活動を一層発展させるためにも、是非ともご参加ください!

7/14
[Wednesday]
午後

NEW!

第40回記念特別企画！ プレセミナー

5,250円で最新情報が入手できます。

【時間／会場】 13:30～17:00／財団法人 日本科学技術連盟 本部ビル(東京・渋谷区千駄ヶ谷)

※本会議とは別に参加費5,250円(税込)が必要です。 ※お得な「プレセミナー」+「本会議」のセット割引価格もご用意しました。

趣 旨

本年、第40回シンポジウム開催を記念し、その前日に、若手及び中堅技術者向けに「プレセミナー」を企画しました。

ご承知の通り、信頼性技術は実際の事業の中で培われるものであります。しかし、特定の企業に所属している技術者はどうしても情報が偏りがちになります。その為、信頼性保全性シンポジウムのように他社の事例を聞いたり、更には自分の発表に対して、他社の技術者の方から意見を頂くことが非常に重要です。

しかし、シンポジウムで報告される事例は技術的に深い反面、狭い範囲の事例に過ぎません。

そこで、今回トピックスを2分野4事例用意しました。みなさまの積極的なご参加お待ちしております。

プレセミナーコーディネーター：門田 靖 氏 (株)リコー 品質本部 品質プロセス革新センター 兼 製品安全性技術室 室長(信頼性・保全性シンポジウム組織委員)



プログラム

テーマ1 カーエレクトロニクス分野の信頼性

ご存知の通り、自動車はいまだ日本の基幹産業であり、且つ信頼性技術をリードする重要な事業領域です。近年のハイブリッド自動車のトラブルに見られるように、自動車は、機械と言うよりも、電子機器といったほうが適切である場合が増えてきたのではないのでしょうか？ その為、自動車における信頼性の考え方が、エレクトロニクス中心に移ってきており、現在部品メーカーと自動車メーカー間で議論がある事も、是非学んでください。



13:30～15:00
車載用電子部品の信頼性評価の視点
カーメーカーから見た「車と電子部品」

岩下 健児 氏
日産自動車(株) EV技術開発本部 EVエネルギー開発部
バッテリー実験グループ 課長補佐

ききどころ 実装技術の視点から、開発品質の作りこみ・特に開発上流でのデザインレビューにおける取り組みや部品メーカーとのやり取りから得られた知見を基にポイントを紹介します。



15:15～16:45
半導体デバイス高信頼性の条件
車載デバイスの品質レベル達成のための人材力

瀬戸屋 孝 氏
株式会社東芝セミコンダクター社 品質推進センター センター長

ききどころ 10ppmといった高品質を要求される車載半導体デバイスを、長年供給されてきた経験を基に、高品質達成のためのアプローチをご紹介します。徹底的な高品質のための仕組み・自動化したうえで、人間の力が不可欠です。

16:45～17:00 総括質疑応答

テーマ2 情報・AV機器分野の信頼性

情報機器とAV機器は本来、ビジネス用途とコンシューマー用途として、全く別の世界を歩んできた製品ですが、元来情報機器であるパソコン・プロジェクター等は、今や立派なAV機器でもあり、両分野の垣根が無くなってきていることを示しています。

今こそ両分野における信頼性を学びあうべきではないでしょうか。



13:30～15:00
情報機器の高信頼性確保に向けた取組み
機械の中で、徹底的に材料がいじめられているレーザープリンター

岡本 直樹 氏
富士ゼロックス(株) 研究技術開発本部 基盤技術研究所 チーム長

ききどころ オフィスの静かな環境の中で使用されるレーザープリンターやコピー機は、設置環境からは想像出来ないストレスが機械内部では存在しています。ここでは、そのようなストレスを受ける部品/材料の信頼性について紹介します。

15:15～16:45
AV機器の高信頼性確保に向けた留意点
AV機器が置かれている意外と知らない過酷な環境

(依頼中)

ききどころ

一般にAV機器が置かれている家庭の中は、意外と埃や湿気が多かったり、腐食性ガスが存在しているなど、悪環境が珍しくありません。ここでは、そのような環境下で、腐食したり、劣化する部品/材料の信頼性について紹介します。

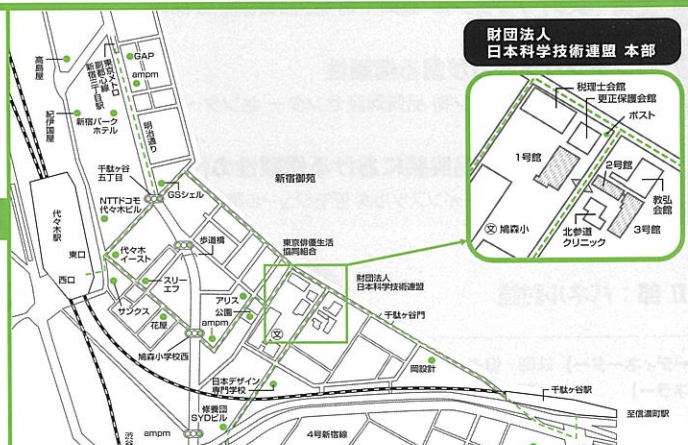
16:45～17:00 総括質疑応答

プレセミナー会場は、
本会議会場(日本教育会館)とは
異なりますので、ご注意ください。

会場案内

財団法人日本科学技術連盟 本部ビル 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-10-11
期間中の案内:03-5379-1233

- JR「代々木」駅 下車・東口出口より 徒歩7分
- 都営地下鉄大江戸線「代々木」駅 下車・A2出口より 徒歩7分
- JR「千駄ヶ谷」駅 下車 徒歩5分
- 都営地下鉄大江戸線「国立競技場」駅 下車・A5出口より 徒歩5分
- 東京メトロ副都心線「北参道」駅 下車・1出口より 徒歩5分



7/16
[Friday]
午前

チュートリアル講演

[時間/会場] 9:30~11:30/A会場(第一会議室)




日本のものづくりとサービスの革新を発信!

テーマ

これからの日本のものづくり、サービスの課題解決に貢献できるリーダーと信頼性技術者の育成

趣旨

- 日科技連では、変化の激しい経営環境において、特に日本のものづくりと信頼性について、「次世代信頼性技術研究委員会」を設置し、産学協同からなるメンバーで研究を重ねてきました。
- この約1年間にわたり、都合4回の委員会を開催し、「日本のものづくりとサービス」の現状について、現場第一線を熟知し、今後のあり方に関心・造詣が深い委員会メンバーのコミットメントを得て、真摯な議論を進めてきました。
- 研究委員会からの成果・提言として、企業・組織の経営者、経営幹部を対象に4/20に総勢50名のもと特別セミナーを企画いたしました。
- 特別セミナーでは、各企業の参加者から多くの忌憚ない意見が寄せられました。寄せられた意見も反映しながら、研究委員会で検討を進めましたが、そのアウトプットを本シンポジウムで再度発信し、参加者の双方向のコミュニケーションにより、研究内容を深化、ブラッシュアップし、「変化へ自律的に即応できる人と組織」を基盤とする「日本の今後のものづくりとサービス」の革新へコミットメントしていきたいと考えています。

講演時間	講演時間	講演時間
9:30~10:00	10:00~10:45	10:45~11:30
<p>テーマ</p> <p>これからの日本のものづくり、サービスのあり方</p>  <p>みやむら てつお 宮村 鐵夫氏 (中央大学 教授)</p>	<p>テーマ</p> <p>関西電力の原子力部門における安全文化醸成活動について</p>  <p>しらい りょうへい 白井 良平氏 (関西電力(株) 執行役員)</p>	<p>テーマ</p> <p>デンソーにおける自動車部品の信頼性向上と技術者の育成</p>  <p>みやき まさひこ 宮木 正彦氏 (株)デンソー 常務役員)</p>

*テーマ・プログラムは変更になる場合があります。 *所属・役職は2010年4月20日現在

7/16
[Friday]
午後

日本信頼性学会「故障物性研究会」によるセッション

[時間/会場] 12:15~16:30/A会場(第一会議室)

日本信頼性学会「故障物性研究会」は、発足以来、現場で発生する電子部品や電子機器の故障問題を議論することで、試験・解析技術の高度化や電子機器の信頼性向上に貢献してきました。しかし、更なる高信頼性化や安全性確保など多様化する時代のニーズに応えるには、新たな知識や高い技術力、そして信頼性の管理が必要となります。本セッションでは、研究会の位置付けや活動目的を明確にした後、部品メーカー、セットメーカー、解析サービス各々の立場から、時代の変化に対応した活動成果や提言について述べます。

第I部：チュートリアル発表

テーマ

高信頼性時代に向けた信頼性技術

(敬称略)

1	日本信頼性学会「故障物性研究会」の活動報告 土屋 英晴 アンデン(株) 岡崎工場 第2品質保証部 部長	4	調達部品の試験・解析(1) 試験・解析サービスの役割とセットメーカーへの提言 高森 圭 沖エンジニアリング(株) 信頼性技術事業部 故障解析グループ グループ長
2	コンデンサメーカーが創る信頼性 牧野 芳樹 ルビコン(株) 品質保証センター センター長	5	調達部品の試験・解析(2) 高信頼性を実現するセットメーカーの試験・解析 本山 晃 パナソニック電工解析センター(株) 基板解析事業部 主幹
3	セットメーカーの部品実装における信頼性の作り込み 平山 良彦 セイコーインスツル(株) 匠モジュール事業部 TM品質保証G		

第II部：パネル討論

テーマ

高信頼性時代に向けた信頼性技術と部品調達

(敬称略)

[コーディネーター] 味岡 恒夫 (株)東レリサーチセンター 東京営業1部 技術部長

[パネラー]

土屋 英晴 アンデン(株) 岡崎工場 第2品質保証部 部長

藤本 直伸 三菱電機(株) 鎌倉製作所 宇宙システム部 信頼性技術センター長

小林 健二 日本電気(株) 品質保証部 エキスパート

高森 圭 沖エンジニアリング(株) 信頼性技術事業部 故障解析グループ グループ長

三ッ石 進 NEC東芝スペースシステム(株) 技術本部 管理グループ、シニアエキスパート

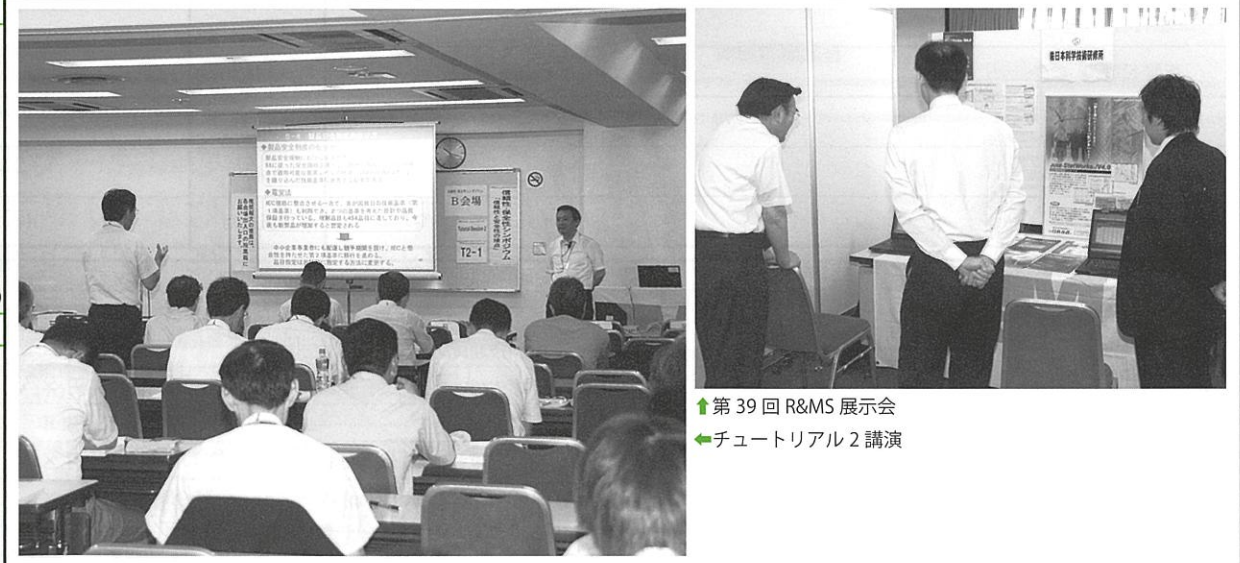
太田 周一 (株)リコー 電装ユニットカンパニー シニアスタッフ

牧野 芳樹 ルビコン(株) 品質保証センター センター長

テーマ 環境と信頼性・安全性の両立に向けて

日程 2010年7月15日(木)、16日(金) 会場 日本教育会館(東京・千代田区一ツ橋) 発表時間 持ち時間は1件につき30分(発表20分、質疑応答10分) 一般発表 31件 / チュートリアル講演・発表:8件 / 合計:39件 受付 9:00~ (敬称略)

日	時間	A会場 第一会議室 (総合司会:益田 昭彦 帝京科学大学客員教授・組織委員会委員)		B会場		C会場		展示会場
7月15日(木)	9:30~9:35	主催者挨拶: (財)日本科学技術連盟 専務理事 三田 征史						<p>2009年度(第39回)R&MS推奨論文賞・特別賞 表彰論文:発表論文の中から参加者の投票をもとに選出されます。論文は、①創意性、②実用性、③完結性、④利用価値、⑤普遍性、⑥発表方法、⑦発表データの利用率の各項目で評価されます。なお、2009年度の受賞論文は次のとおりです。(奨励論文賞の該当はありませんでした。)</p> <p>【推奨論文賞】(発表セッション順・所属は受賞時のものです) ・「品質問題を無くす設計と設計審査」 本田 陽広 (株)デンソー ・統合的デザイン管理手法の研究(その2)―片持ち梁問題による多目的トレードオフ設計法の解説― 森 初男¹⁾、吳 宏堯¹⁾、鈴木 秀男²⁾、松浦 峻²⁾、長谷川 雄大²⁾ :¹⁾(株)IH、²⁾慶應義塾大学 ・認定評価のための初期故障率の検証 岡岡 敏成¹⁾、井上 善裕¹⁾、北 見市²⁾ :¹⁾三菱電機コントロールソフトウェア(株)、²⁾三菱電機(株)</p> <p>【特別賞】(発表セッション順・所属は受賞時のものです) ・半導体の各静電破壊試験方法の市場相関性の検討 田中 政樹 (株)ルネサステクノロジ ・NITEの活動と今後の日本の製品安全はどうあるべきか 長田 敏 (独)製品評価技術基盤機構</p>
	9:35~10:20	【基調講演】「環境と信頼性・安全性の両立に向けて」 佐藤 吉信 東京海洋大学教授・組織委員会委員長						
	10:20~10:45	2009年度(第39回)R&MS推奨論文賞・奨励論文賞・特別賞 表彰式 賞状・副賞の授与: 佐藤 吉信 東京海洋大学教授・組織委員会委員長 選考理由について: 木村 忠正 電気通信大学名誉教授・報文小委員会委員長						
	10:45~10:55	休憩						
	10:55~12:25	【特別講演】「三洋電機における環境戦略と信頼性・安全性」 本間 充 三洋電機株式会社 取締役副社長						
	12:25~12:30	事務連絡:日科技連事務局						
	12:30~13:45	昼食休憩						
	Session	A会場	司会(補佐)	B会場	司会(補佐)	C会場	司会(補佐)	
	13:45~14:15	[Session 1] 電子部品・材料の信頼性(1)	手塚 泉 (ルネサステクノロジ(株))	[Session 3] データ解析	益田 昭彦 (帝京科学大学)	[Session 5] 最新信頼性・安全性解析(展示企業の発表)	井原 惇行 (楠本化成)	
	14:15~14:45	1-1 太陽電池モジュールの良品構造解析手法 村原 大介 沖エンジニアリング(株)		3-1 信頼性に関わるデータ解析へのSN比の応用 松岡 敏成 三菱電機コントロールソフトウェア(株)		5-1 Relex Reliability Studio 2009 原 良孝 テックサポートマネジメント(株)		
14:45~15:15	1-2 BGAにおける導電性接着剤の強度 岡 克己 沖エンジニアリング(株)		3-2 Copulaの多重従属な競合リスクモデルにおける識別可能性問題への応用 米山 寛二 兵庫県立大学		5-2 HALT最新情報2010 ―世界へ広がるHALT/IEEE ASTRでの発表事例― 川上 雅司 (株)東陽テクニカ			
15:15~15:45	1-3 高輝度白色LEDの信頼性向上と評価 Byungjin Ma 韓国電子部品研究院		3-3 計算統計学を用いたワイブル分布型加速モデルに基づく信頼性解析 貝瀬 徹 兵庫県立大学		5-3 原因究明・信頼性試験のアウトソーシング 小林 吉一 楠本化成(株)			
Session	A会場	司会(補佐)	B会場	司会(補佐)	C会場	司会(補佐)		
15:45~16:15	[Session 2] 電子部品・材料の信頼性(2)	一川 清 (大阪大学)	[Session 4] 品質工学と信頼性	岩間 英雄 (日本CMO)	[Session 6] 機械系	手塚 泉 (ルネサステクノロジ(株))		
16:15~16:45	2-1 最新型ガスメーターを支える高分子材料技術 小澤 由規 大阪ガス(株)		4-1 信頼性テストのパフォーマンス向上に関する試み 長谷部 光雄 のっぽ技術開発研究所		6-1 構造損傷の拡大評価に対するパーコレーション・モデルの応用 伊藤 誠一 宇宙航空研究開発機構			
16:45~17:15	2-2 SQUID顕微鏡及びサーマルエミッション顕微鏡を利用した積層パッケージの非破壊検査の試行 照井 裕二 東芝アナリティクス(株)		4-2 衛星用スラストにおける品質工学を用いた流量特性の改善 廣島 敬之 (株)IHエアロスペース		6-2 interface-notch先端近傍の弾塑性ひずみ簡便評価法の提案 林 健治 トビー工業(株)			
	2-3 装置安定稼働のためのEES適用事例 高橋 照明 東芝インフォメーションシステムズ(株)	佐々木 (佐々木)			6-3 スプライン用高潤滑グリースの開発 分根 聖司 (株)デンソー			
チュートリアル講演		[Session 7] 信頼性設計		[Session 10] 保全・設備診断				
<p>日本のものづくりとサービスの革新を発信! これからの日本のものづくり、サービスの課題解決に貢献できるリーダーと信頼性技術者の育成 9:30~10:00 これからのものづくり、サービスのあり方 宮村 鐵夫 中央大学 10:00~10:45 関西電力の原子力部門における安全文化醸成活動について 白井 良平 関西電力(株) 10:45~11:30 デンソーにおける自動車部品の信頼性向上と技術者の育成 宮木 正彦 (株)デンソー</p>		<p>7-1 「品質問題を無くす設計と設計審査No.2(仕組み・マネジメント改善、人材育成)」 本田 陽広 (株)デンソー 7-2 統合的デザイン管理手法の研究(その3)―製品設計現場における適用事例の紹介― 吳 宏堯 (株)IH 7-3 スライドドアガイドローラ統合化による開発期間短縮の実現〜DRBFMと多変量解析法の併用による的確な検証・評価〜 尾子 禎宏 アイシン精機(株) 7-4 新製品開発設計におけるコンフィギュレーション・マネジメントの研究 杉野 敦 中央大学大学院</p>		<p>10-1 遠隔監視システムを用いたガスタービンプラントの異常診断 三上 尚高 三菱重工(株) 10-2 RCM解析における保全方式選定の研究―劣化パターンモデル化と予測― 里見 亮彦 中央大学大学院 10-3 運用・保全・工事しやすい配電用変電所システムについて 糸谷 亮祐 関西電力(株)</p>				
11:30~12:15 昼食休憩		11:30~12:30 昼食休憩						
日本信頼性学会「故障物性研究会によるセッション(1)」		[Session 8] 安全性		[Session 9] FMEA・FTA				
<p>●チュートリアル発表 高信頼性時代に向けた信頼性技術 12:15~12:35 日本信頼性学会「故障物性研究会」の活動報告 土屋 英晴 アンデン(株) 12:35~13:00 コンデンサメーカーが創る信頼性 牧野 芳樹 ルビコン(株) 13:00~13:25 セットメーカーの部品実装における信頼性の作り込み 平山 良彦 セイコーインスツル(株) 13:25~13:50 調達部品の試験・解析(1) 試験・解析サービスの役割とセットメーカーへの提言 高森 圭 沖エンジニアリング(株) 13:50~14:15 調達部品の試験・解析(2) 高信頼性を実現するセットメーカーの試験・解析 本山 晃 パナソニック電工解析センター(株)</p>		<p>8-1 ソフトウェアに対する安全度レベル計算の一手法 藤原 隆次 ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ(株) 8-2 ETCシステム開発における製品安全設計の推進 森 康 三菱電機(株) 8-3 ソフトウェア製品の安全性向上のためのリスクマネジメント手法 河合 一夫 (株)プロムス 8-4 状態遷移モデルに基づく自動車ステアパイワイシステムの不具合率の推定式の検討 梶引 豪 (株)日本機能安全</p>		<p>9-1 RFMEA(Risk Failure Mode and Effect Analysis)による点検業務プロセスのリスク分析 高 明淑 (株)東芝 9-2 優先ANDゲートを含むフォールトツリーの解析 阪田 隆司 京都大学大学院 9-3 順序依存故障論理をもつ非コヒーレントシステムのリスク解析 井野 孝 東京海洋大学</p>				
14:15~14:30 休憩		14:30~15:00 休憩						
日本信頼性学会「故障物性研究会によるセッション(2)」		Session						
<p>14:30~16:30 ●パネル討論 高信頼性時代に向けた信頼性技術と部品調達 コーディネーター: 味岡 恒夫 (株)東レリサーチセンター パネラー: 土屋 英晴 アンデン(株) 三ツ石 進 NEC東芝スペースシステム(株) 藤本 直伸 三菱電機(株) 太田 周一 (株)リコー 小林 健二 日本電気(株) 牧野 芳樹 ルビコン(株) 高森 圭 沖エンジニアリング(株)</p>								



↑ 第39回 R&MS 展示会
 ← チュートリアル 2 講演

※:プログラムの内容は変更になる場合がございます。

組織委員・顧問 (五十音順、敬称略)

【委員長】 佐藤 吉信 東京海洋大学 教授 海洋工学部 海事システム工学科
【副委員長】 木村 忠正 電気通信大学 名誉教授
【委員】 井原 淳行 楠本化成(株) エタックス事業部 顧問
 岩間 英雄 日本CMO(株) 社長付
 岡田 孝雄 宇宙航空研究開発機構 航空プログラムグループ
 尾畑 義雄 関西電力(株) 企画室品質管理グループ チーフマネジャー
 門田 靖 (株)Jコエ 品質本部 品質プロセス革新センター 兼 製品安全性技術室 室長
 鎌田 信也 三菱重工業(株) 原子力事業本部 原子力技術センター 原子力技術部 部長代理
 上久保 忠正 (株)日立製作所 品質保証本部 QAセンタ 主任技師
 佐々木 健二 ソニー(株) 半導体事業本部 品質信頼性部門 信頼性技術部 担当部長
 佐藤 廣幸 アイシン精機(株) 解析制御技術部 部長
 関 清伸 富士通(株) 品質保証本部 品質保証推進統括部 リーダー
 田中 克幸 (株)デンソー 本社 品質管理部第1品質監査室 主任部員
 田中 健次 電気通信大学 教授 大学院情報システム学研究所 社会知能情報学専攻
 手塚 泉 ルネサス エレクトロニクス(株) 品質保証統括部
 汎用デバイス品質保証部 主管技師
 中條 聡 (株)東芝 品質保証統括部 アナログ&パワー品質保証部 主管技師

二川 清 大阪大学 特任教授 大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
 仁田 周一 東京農工大学 名誉教授
 布谷 貞夫 (株)小松製作所 開発本部 先進技術シーズ調査担当 主幹
 藤本 直伸 三菱電機(株) 鎌倉製作所 宇宙システム部 宇宙部品エンジニアリング課 課長
 藤本 良一 (株)IHI 航空宇宙事業本部 技師長
 堀籠 教夫 東京商船大学 名誉教授
 益田 昭彦 帝京科学大学 客員教授 生命環境学部 環境科学科
 宮村 鐵夫 中央大学 教授 理工学部 経営システム工学科
 向殿 政男 明治大学 教授 理工学部 情報科学科
 森川 明彦 JSR(株) 製品品質保証部長
 山田 悟 富士ゼロックス(株) R&D企画管理部
 山田 雄愛 名城大学大学院 客員教授
 若井 一顕 第一工業大学 教授 情報電子システム工学科
【顧問】 佐々木 正文 防衛大学校 名誉教授
 塩見 弘 日本科学技術連盟 参与
 額田 啓三 元 日東電工(株) 技師長
 真壁 肇 東京工業大学 名誉教授
 三根 久 京都大学 名誉教授

参加申込方法

「参加申込書」に必要事項をご記入の上、下記宛にFAX・郵送にてお申し込みください。
 また、ホームページから「参加申込書」をダウンロードし、E-mailでお申し込みも可能です。
 「開催通知」「参加券」「請求書」は、開催1ヶ月前からご送付いたします。参加費は、請求書発行後2ヶ月以内に、請求書に記載してある銀行口座へお振り込みください。

参加費 (税込)

プレセミナー(14日).....	5,250円	学 生(学生割引).....	5,250円
おすすめ! プレセミナー(14日)+本会議(15日・16日)のセット		報文発表者.....	5,250円
一般.....	※45,150円のところ→ 42,000円	共同執筆者(発表1件につきお一人).....	18,900円
賛助会員.....	※43,050円のところ→ 39,900円	2010年度RDT研究会・R-Map実践研究会	
本会議/一般.....	39,900円	SIQIP研究会会員.....	18,900円
本会議/賛助会員(後援・協賛団体会員)...	37,800円	JCRE登録者.....	18,900円

※参加費は、当日欠席されてもお返しいたしかねますので、ご了承ください。
 ※参加者以外、報文集は配付いたしません。また、報文集のみは頒布いたしませんので、ご了承ください。

参加申込先

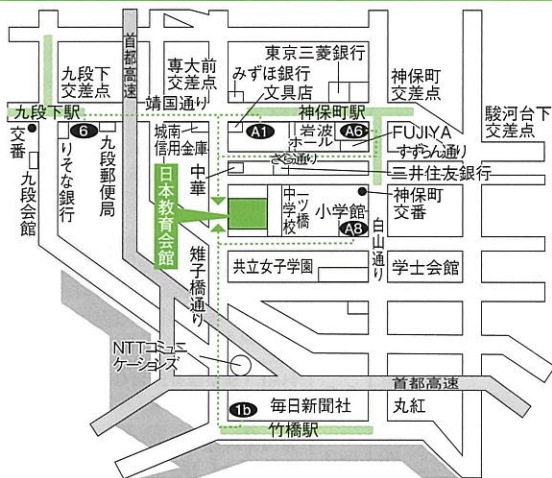
財団法人日本科学技術連盟
 広報企画室 セミナー受付グループ
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-10-11
 TEL:03-5379-1233 FAX:03-3225-1814
 e-mail:regist@juse.or.jp

シンポジウム内容に関する問合せ先

財団法人日本科学技術連盟
 教育推進部第二課 信頼性担当
 TEL:03-5378-9850 FAX:03-5378-9842
 e-mail:re-group@juse.or.jp

会場案内

日本教育会館 東京都千代田区一ツ橋2-6-2
 道案内専用電話：03-3230-2833



- 東京メトロ半蔵門線「神保町」駅下車.....(A1出口)徒歩約3分
- 地下鉄都営三田線「神保町」駅下車.....(A8出口)徒歩約5分
- 東京メトロ東西線「竹橋」駅下車.....(北の丸公園側出口)徒歩約5分
- JR総武線「水道橋」駅下車.....(西口出口)徒歩15分

第40回 信頼性・保全性シンポジウム 参加申込書

FAX:03-3225-1814

(該当の□に✓をしてください) □ プレセミナーのみ □ プレセミナー(□ テーマ1 □ テーマ2)+本会議のセット参加 □ 本会議のみ

● 参加者 ※参加区分をご記入ください。なお、後援・協賛団体名称・会員番号は連絡担当者欄に必ずご記入ください。

記入不要	参加者名(ふりがな)	所属事業所・部課・役職・E-mail
		所属・役職:
参加区分	<input type="checkbox"/> 一般 会員(□日科技連 □後援 □協賛) <input type="checkbox"/> 共同執筆者 □学生 □研究会会員	E-mail:
		所属・役職:
参加区分	<input type="checkbox"/> 一般 会員(□日科技連 □後援 □協賛) <input type="checkbox"/> 共同執筆者 □学生 □研究会会員	E-mail:

● 連絡担当者(お申込み受理後「開催通知」「参加券・請求書」等をお送りする方)

会社名		事業所	
所属・役職		担当者	
所在地	〒	電 話	
E-mail		FAX	
後援・協賛団体の名称		会員番号	

参加費 (税込)	プレセミナー(14日)	本会議(15日・16日)		
	1. プレセミナー(14日)	5,250円 × 名	円	
	□ テーマ1 □ テーマ2			
	おすすめ! プレセミナー(14日)+本会議(15日・16日)のセット			
	2. 一般			
	※45,150円のところ → [セット割引価格] 42,000円 × 名		円	
	□ テーマ1 □ テーマ2			
	3. 日科技連賛助会員(後援・協賛団体会員)			
	※43,050円のところ → [セット割引価格] 39,900円 × 名		円	
	□ テーマ1 □ テーマ2			
		4. 一般	39,900円 × 名	円
		5. 日科技連賛助会員(後援・協賛団体会員)	37,800円 × 名	円
		6. 学 生(学生割引)	5,250円 × 名	円
		7. 報文発表者	5,250円 × 名	円
		8. 共同執筆者(発表1件につきお一人)	18,900円 × 名	円
		9. 2010年度RDT研究会・R-Map実践研究会・SIQIP研究会会員	18,900円 × 名	円
		10. JCRE登録者(登録No.)	18,900円 × 名	円

※お支払いにつきましては、お申込み受理後、請求書と開催通知を併せてお送りいたしますので、請求書発行後2ヶ月以内にお支払いください。
 ※ご記入いただきました企業・組織及び個人情報に関しましては、参加申込受付処理ならびに日科技連からの事業情報のご送付のために使用させていただきます。